在インドネシア日本国大使館付属バンドン日本人学校　（Bandung Japanese School）

太陽の子

「太陽の子・バンドンの子」
～明るい心・頑張る力～

令和8年度学校だより
10月

校長　宮邉淳一

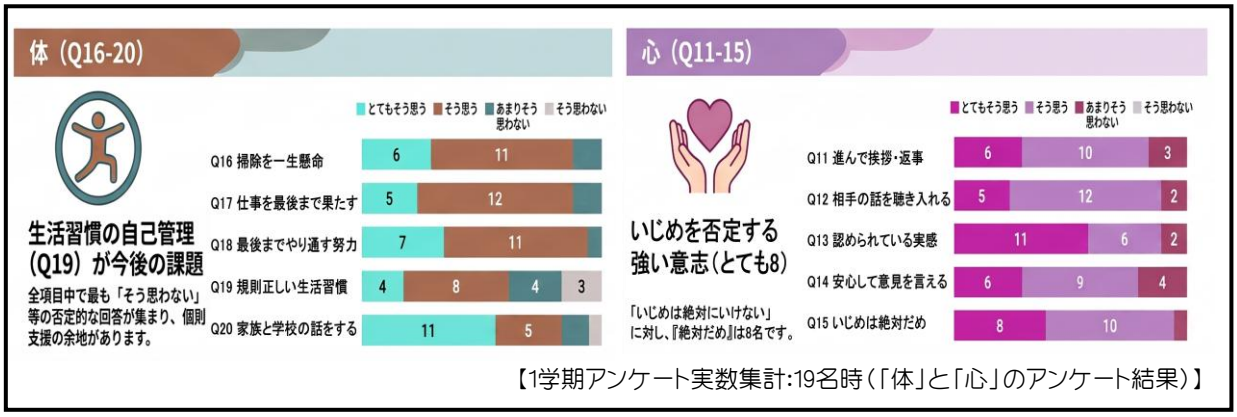
大人の背中がお手本となった「心と体」の躍動

～夏祭りの大成功に寄せて～

１学期末のアンケート（体・心・学び・自分らしさ）を羅針盤に、9月号では、遠足での「自分で考え行動する楽しさ」の成長をお伝えしました。2学期の大冒険は、そこからさらに深まりを見せています。

私は子どもたちに、日頃の学校生活や集会で「『楽しさ』は空から降ってくるものではなく、自分たちの手と工夫で創り出すもの」「誰かを笑顔にする喜びこそが本当の楽しさだよ」と語りかけています。

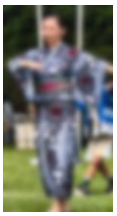
今回の夏祭りは、まさにその言葉を保護者のみなさまや関係する大人たちが、全身で体現してくださった大舞台でした。時間を最大限に活かした準備や当日の運営で汗を流し、250名もの笑顔があふれる最高の時間を創り出してくださった大人たちの姿。それこそが、子どもたちの心に真っすぐ届いた「最高のお手本」でした。



【1学期アンケート実数集計:19名時（「体」と「心」のアンケート結果）】

私は、体の安全や健康が、爽やかに動くエネルギーを作り出し「相手の思いをくみ取って」「誰かのために」といった相互理解へと進んでいくものであり、そんな心理的安全性が深い学びへと繋がっていくものだと考えます。

今回の夏祭りにおける保護者のみなさまの粉骨砕身での動きは、Q17「仕事を最後まで果たす」Q18「最後までやり通す努力」を身をもって見せていただいたと感じました。



盆踊りのいわれや価値の説明があり、その意図を汲み取っての会場に広がった盆踊りの輪や、多くのイベントで会場全体の心が一つになった瞬間。そして何より胸を打たれたのは、祭りが終わった後の片付けの風景です。大人が最後まで笑顔で働く背中を見た子どもたちは、自ら進んで腕をまくり、最後の最後まで大人と手を取り合って片付けをやり遂げました。

まさに大人と子どもが一枚岩となり、自らの手で最高の「楽しさ」を創り上げた誇りと感動の結晶でした。

保護者の汗と、関係者の温かい支えへの感謝

（お礼に代えて）

■ 見えない場所で流された汗と、心のこもった段取り（校長として見つめた感動）

【保護者の皆様（S）：現場で魅せてくださった情熱の汗】
固い段ボールを丁寧に切り出し、会場を華やかに彩り、当日の混雑の中でも笑顔で立ち回り続けてくださった保護者の皆様。時間を惜しむことなく子どもたちのために流してくださった「現場の汗」は、言葉以上に雄弁に「楽しさを創り出す誇り」を子どもたちに教えてくださいました。

【ジャパンクラブの皆様（C）：相手を思いやる洗練された知恵と配慮】
そして、このお祭りを温かく支えてくださったジャパンクラブの皆様のきめ細やかなお心遣いにも、深い感動を覚えました。浴衣や道具が一式ジップロックできれいに分けられて整理・保管されたもの（PTA）を着ていく子どもたちの体格に合わせ、来客の方々も含めてすぐに着付をしてくださった、場の準備や事前のやりとり。
地元のローカルなお店や外部の方々と丁寧な対話を重ね、安全で温かい環境を整えてくださったこと。見えない場所で時間をかけ、知恵を絞ってくださった一つひとつの段取りに、相手を思う深い愛情を感じました。

大人が見せてくださったこの「本気のお手本」があったからこそ、子どもたちは「誰かを笑顔にする喜び」を肌で学び、自分たちの手で片付けまでやり切る素晴らしさを見せてくれたのだと確信しています。

笑顔のバトンをつなぐ大人

五年　西垣　咲良

「カタカタカタカタ……」
夕方、家の中からミシンの音が聞こえてきました。明かりがついた部屋で何をしているのだろうと思っていましたが、母は、お祭りの実行委員長として、準備を最後までやめずにやっていたのです。
先日、コロナで止まってしまった夏祭りが七年ぶりに復活し、最高の思い出がまた一つ増えました。
当日、私はただただ「楽しい！」という思いだけで遊んでいましたが、大人たちは本当に大変そうでした。
母はみんなの前では言わないけれど、家に帰ると夜ぐっすりしていて、心の中で「つかれたー」と言っていたのだと思います。自分のつらさを見せず、みんなのために笑顔で働く姿を見て、私は大人ってすごいなと思いました。
私たちが最高の思い出を作ってくれたのは、大人たちがいたからです。周りの人を笑顔にするために一生懸命になれる。私もそんな大人になりたいと思いました。

↑子どもたちによる学校周辺の清掃活動（前日）

夏祭りの成功を願った諸準備→（おみこし修理）

←片付け後にできた係への労いの輪

→温かい空気の中で行われた閉会式

■ 素敵な「お手本」を、ありがとうございました
「ありがとう」「すてきだったよ」「楽しかったね」
お祭りの最中、そして終わったあとの学校で、このような温かい言葉が大人からも子どもからも、たくさん交わされているのを耳にしました。
自分が頑張ったことを誰かが見ていてくれ、言葉にして伝えてくれる。このささやかな言葉のキャッチボールこそが、だれ一人として取り残さない「世界一やさしい学校」を創り上げる魔法のアイテムになります。温かい学校の仲間たちと周囲の大人が手と手を携えて創り上げたこの素晴らしい時間を、私たちはこれからも大切に重ねてまいります。
保護者の皆様、子どもたちを取り巻く大人の皆様、本当にありがとうございました。これからもこの温かい共同体を、みんなで一緒に大切に育てていきましょう。

心からの感謝の気持ちを込めて

バンドン日本人学校　校長　宮邉　淳一